

早咲きの桜(ドー夢桜)を、ナゴヤドームに納入！

今号は、一足早く春の香りをお届けする話題です。この15日～21日名古屋ドームで開催されました第7回アジア太平洋蘭会議・蘭展に、事務局から依頼され、M式水耕で一足早く開花させた桜の木を納入しました。会場内に1本、会場出口に、エアードームを設置し、その中に2本と計3本の樹齢20年のソメイヨシノを設置展示したものです。このアジア太平洋蘭会議・蘭展は、三年に一度アジア太平洋地域で開催されるランの展示と国際蘭会議で、「ランのアジア大会」とも呼ばれています。ナゴヤドームの

会場には世界各地のラン10万株、100万輪が展示され、国内外問わず研究者、業者、愛好家が集まるものです。

弊社のある十四山村では、過去から桜の木をエアードームで囲み、加温することによって3月の始めには開花させる「日本一早い桜」作りに取り組み、地域イベントに活用するなどの展開をしていましたが、今回この蘭展開催にあたり、ぜひともこの技を活用したいとの主催者である愛知県からの要請で、十四山村の事業として取組んだものです。2月中旬、M式水

耕に3本の桜を持ち込み設置したエアードーム内で、昼22、夜間17の温度管理と、水やりなどの作業を地域の実行委員会の方々が分担し、開花までもっていったものです。桜の花だけでなく主婦を主体とした地域のフラワーグループ手作りの鉢植えも併せて栽培されてきたものです。会期直前の3月13日には、実行委員会、M式スタッフなど総勢40名で搬入設置するなどの綿密かつ熱心な準備を経て、実現したものです。



開幕に先がけての内見会では高円宮ご夫妻もご覧になられるなど、訪れる人々の目を楽しませることができました。会期中の入場者は18万人とのことで、十四山村のドー夢桜には、約6万人の方々が訪れていただきました。一足早い桜を見て満足と感嘆の様子でした。

今回のエアードームには、骨材としてパイプを利用したトラス

構造を初めて用いましたが、強度がありながら軽量かつ美観にすぐれているとの評価もいただき引き合いも出てまいりました。このように弊社のエアードーム技術、環境制御技術が有形無形の形で地域のお役にたて喜んでおります。会期後は、撤去となり地域の公園などに展示されることになっております。

(会長 村井邦彦)